



2024年 6月24日  
第207号

JR東労組   
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実  
編集 情宣担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

# 6月23日沖縄「慰霊の日」

2024年6月23日（日）は、20万人を超える方が犠牲となった旧日本軍による沖縄戦の組織的戦闘の終了から79年目の「慰霊の日」でした。今年も、平和祈念公園内の「平和の礎」には沖縄戦に関連して亡くなったことがわかった名前が新たに181名刻印され、計24万2,225人となりましたが、未だに沖縄戦が終わっていないことを示しています。

慰霊の日には、恒久平和を願う「沖縄全戦没者追悼式」が、沖縄戦末期の激戦地となった糸満市摩文仁の平和祈念公園で、一般参列者の参加のもと執り行われました。今年の追悼式では沖縄県立宮古高校3年生の仲間友佑さんが自作の平和の詩を朗読し、

「七十九年の祈りでさえも まだたりないというのなら それでも足りないというのなら  
もっともっとこれからも 僕らが祈りを繋ぎ続けよう 限りない平和のために  
僕ら自身のために 紡ぐ平和が いつか世界のためになる そう信じて」

と平和を想う願いを語るなど、さまざまな立場の方が平和の大切さや平和に向けての決意を語りました。玉城デニー知事は平和宣言において「在沖米軍基地の更なる整理・縮小、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去、辺野古新基地建設の断念など、基地問題の早期解決を図るべき」と強く求めました。岸田首相は沖縄の人々に、米軍基地の集中による大きな負担を掛けていることを重く受け止めつつ「在日米軍施設・区域の整理・統合・縮小を進めるとともに、こうした目に見える成果を一つ一つ着実に積み上げていく」と挨拶しましたが、沖縄県が求める名護市辺野古の新基地建設断念には言及しませんでした。

JR東労組は今年の1月に『沖縄平和研修』を開催し、軍隊は住民を守らないなどの戦争の本質や、平和の大切さ、また戦後から続く基地問題などを改めて学んできました。しかし、沖縄本島を含む南西諸島に台湾有事を想定したミサイル配備などが急ピッチで進められ、また「沖縄戦」が繰り返されようとしています。そして、岸田政権が閣議決定した安保関連3文書により、沖縄だけでなく日本全体が「新たな戦前」になりつつあります。

私たちは、平和な社会を実現するために考え、行動しなければなりません。

来年で沖縄戦から80年を迎えますが、沖縄戦やアメリカによる占領統治時代を実際に経験した方々が少なくなってきました。いかに次の世代に語り継ぎ、同じ悲しみを経験することがないよう、平和の灯を繋いでいくかは私たちの課題です。

**私たちが学んできたことを次の世代へ語り継ごう！  
仲間と共に平和な社会を実現しよう！**